

# H.C.R. 2023

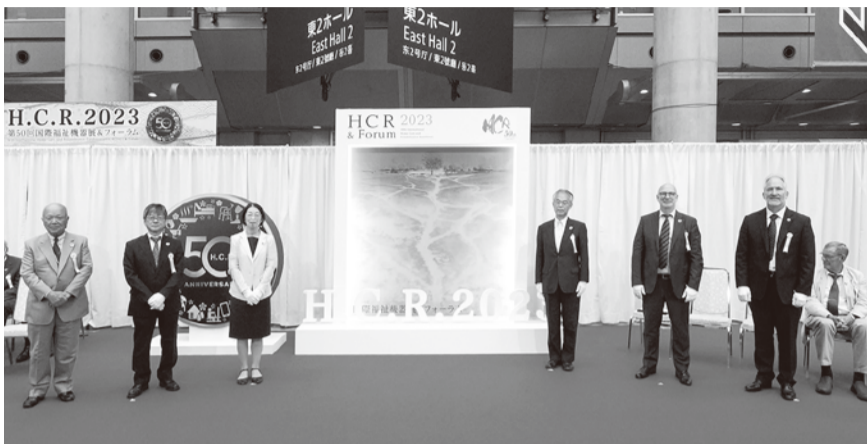
REPORT  
報告

**リアル展**  
2023/9/27(水)～29(金)  
東京国際展示場「東京ビッグサイト」  
東展示ホール

**Web展**  
2023/8/28(月)～10/30(月)  
H.C.R.Webサイト  
特設サイト内

## 1 オープニングセレモニー

9月27日(水) 9:45～



東京ビッグサイト東2ホール前ガレリアにて、多くの来場者・関係者にお集まりいただき、オープニングセレモニーを開催しました。主催者である村木厚子全国社会福祉協議会会長より、50回の記念となるH.C.R.2023の開催に際し福祉機器開発・販売企業やご来場の皆様への感謝を述べました。



村木全国社会福祉協議会会長

続いて、村木全社協会長、古都賢一保健福祉広報協会理事長、辺見聡厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長、デンマークや米国から来訪された来賓などによりアンパール(除幕式)が執り行われ、H.C.R.2023のビジュアルデザインおよび50周年ロゴデザインをモチーフにしたオブジェが登場し、H.C.R.2023が華々しく開幕しました。

## 特別感謝状贈呈

H.C.R.開催50周年を記念し、長年にわたり福祉機器の開発と普及に協力いただいたことに敬意を表し、30回以上ご出展いただいた出展社に対し特別感謝状を贈呈しました。

特別感謝状出展社 一覧 (出展回数順、50音順で表示しています)

出展回数	出展社名	出展回数	出展社名
50	アビリティーズ・ケアネット株式会社	37	TOTO株式会社
49	酒井医療株式会社	35	株式会社イースアイ
49	パラマウントベッド株式会社	34	安寿/アロン化成株式会社
48	株式会社今仙技術研究所	34	昭和貿易株式会社
48	スズキ株式会社	34	シルバー新報(環境新聞社)
48	ピジョン タヒラ株式会社	34	トヨタ自動車株式会社
47	パシフィックサプライ株式会社	34	株式会社ユーキ・トレーディング
44	OG Wellness / オージー技研株式会社	33	株式会社ケーブ
43	株式会社アマノ	33	株式会社星光医療器製作所
43	大邦機電有限会社	33	フランスベッド株式会社
41	株式会社デベロ	31	ウィズワン株式会社
41	日進医療器株式会社	31	株式会社コムラ製作所
41	株式会社松永製作所	31	シーホネンス株式会社
40	株式会社豊通オールライフ	31	公益財団法人テクノエイド協会
39	株式会社いうら	31	株式会社ミキ
39	株式会社ウェルファン	30	弘進ゴム株式会社
39	株式会社竹虎	30	東海機器工業株式会社/燦
39	フットマーク株式会社	30	矢崎化工株式会社
39	株式会社ランダルコーポレーション		
37	株式会社カワムラサイクル		

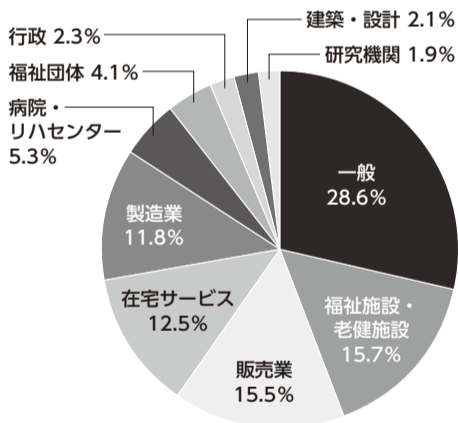
(※)上記出展回数には、福祉機器Web2020への出展も含まれます。

## 2 来場者数 11万3,139人

来場者数は、会期3日間で、延べ113,139人にのびりました。

来場者の業種の割合としては、一般が昨年同様28.6%と一番多い結果となりました。次いで福祉施設・老健施設が15.7%であり、さらに続いて販売業15.5%、在宅サービス12.5%、製造業11.8%、の順となりました。来場者数は昨年から2万5千人増えていますが、各業種別の割合としては大きな変動はなく、各業種それぞれに昨年以上に来場いただいたことが伺えました。

◆H.C.R.2023 来場者属性



## 3 出展社数 379社・団体

出展社数は、リアル展・Web展あわせて国内外から379社・団体が出展しました。内訳としては、国内から349社・団体、海外からは10か国2地域より30社・団体の出展がありました。

コロナ禍の制限が緩和されたことが影響したためか、昨年に比して1.1倍の出展社数となり、海外出展社は昨年より2倍近くの増となりました。

また、東京ビッグサイト東1～6ホールに加えて8ホールを活用し、50周年特別企画等を実施しました。

国名	社数
日本	349
アメリカ	5
イギリス	1
イスラエル	1
オーストラリア	1
オランダ	2
韓国	1
スウェーデン	2
台湾	7
中国	7
デンマーク	1
ドイツ	1
香港	1

## 感謝状贈呈

出展社の中から、H.C.R.2023で15回目の出展を迎えられた下記10社を対象に、9月27日(水)の開会式終了後東2ホール前ガレリア等にて本会理事長より感謝状と記念品の贈呈を行いました。

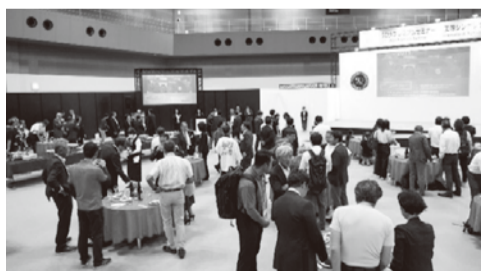
### 15回目の出展をいただいた出展社

(50音順)

- アイリスチトセ株式会社
- 株式会社インタージェット
- 株式会社キザキ
- 黒田株式会社
- 東京パック株式会社
- 日本セイフティー株式会社
- ペルモビール株式会社
- 株式会社南日本情報処理センター
- ユーバ産業株式会社
- RIFTON EQUIPMENT (米国)

## H.C.R. 50周年記念レセプション

9月27日(水) 17:15～ 東8ホール



H.C.R.2023出展社や、これまでH.C.R.の発展に携わっていただいた来賓を国内外から広くお招きし、50周年記念レセプションパーティを開催しました。

来賓を代表して武見敬三厚生労働大臣とデンマーク高齢者担当大臣のメッテ・キルケゴール氏よりご挨拶をいただき、H.C.R.への期待をお寄せいただきました。また、H.C.R.の第1回(当時:「社会福祉施設の近代化展」)の立ち上げに尽力した松寿庶氏(保健福祉広報協会顧問)が歴史を振り返るスピーチを行ったのち、長年ご出展いただいている出展社を代表して、50回連続出展となる(株)アビリティーズ・ケアネット代表取締役会長兼社長の伊東弘泰氏へ表彰を行い、挨拶をいただきました。

## 製品別出展社数

H.C.R.2023出展社のうち、取り扱い製品カテゴリー別の出展社数は下記の通りとなりました。

### ◆製品別出展社数一覧

<b>移動機器 (車いす等)</b>		<b>建築・住宅設備</b>	
手動車いす	15	スロープ	2
車いす関連用品	25	手すり	15
電動車いす	12	エレベーター	1
自転車	1	段差解消機	7
介助車	3	階段昇降機	6
<b>移動機器 (杖、歩行器等)</b>		建築・住宅設備(その他)	
歩行者、歩行補助車	13	リハビリ・介護予防機器	5
杖	10	歩行等訓練機器	7
<b>移動機器 (リフト等)</b>		リハビリ用教材・機器	
移乗補助機器	10	筋力トレーニング機器、身体機能訓練機器	16
床走行リフト	14	口腔ケア用品	4
固定式・据置式リフト	11	義肢、装具	3
介助・歩行補助ロボット	2	義肢、装具	2
<b>福祉車両、関連機器</b>		<b>日常生活支援用品</b>	
障害者用自動車運転装置	3	自具	4
車いす専用福祉車両	5	障害者スポーツ・レクリエーション用品	2
入浴用特殊車両	1	介護関連用品	1
<b>ベッド用品</b>		日常生活支援用品(その他)	
ベッド	6	フレイル介護予防関連機器	8
マットレス、床ずれ防止製品	13	介護等食品、調理器具	4
サイドテーブル	1	食器用品、食器	2
介護用シーツ	5	調理器	2
ベッド用品(その他)	5	高齢者・障害者向け食品	2
<b>入浴用品</b>		<b>福祉施設環境設備・用品</b>	
浴槽	13	施設建築、施設用床材・壁材	1
入浴用チェア	5	洗濯機、乾燥機、掃除機、脱臭機	2
滑り止め用品	10	いす、座位保持・立ち上がり補助用品	1
浴槽台	3	家具、テーブル、洗面台	2
入浴用リフト	6	介護職員用衣類	4
入浴用品(その他)	11	福祉施設環境設備・用品(その他)	8
<b>トイレ・おむつ用品</b>		<b>災害対応設備・用品</b>	
ポータブルトイレ	7	火災報知設備、自動消火設備	1
便器・便座	5	防災・避難用品	3
防臭剤、消毒剤	3	自家発電・蓄電装置	1
トイレ関連用品	8	<b>感染症等予防用品</b>	
おむつ関連用品	2	空気清浄機、加湿器、消毒器	5
自動排泄処理装置	4	感染症等予防用品	13
<b>衣類・着脱衣補助用品</b>		<b>福祉サービス向け経営・ケア管理システム</b>	
靴	6	福祉事業関係コンピュータシステム	19
<b>コミュニケーション・ソフトウェア機器</b>		<b>出版、福祉機器情報</b>	
福祉電話・FAX、携帯電話補助器	1	福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト	14
視覚障害者用誘導システム	1	<b>製品別出展社数計</b>	
障害者用OA機器、ソフトウェア、操作補助具	5	<b>446</b>	
コミュニケーション関連ロボット	3		
コミュニケーション・ソフトウェア機器(その他)	12		
<b>センサー・見守り機器</b>			
緊急通報システム	2		
見守り機器	14		
排尿予測支援機器	2		

(※) H.C.R. web2023 掲載情報等より抜粋

## 4 国際シンポジウム 9月28日(木) 13:00~15:00 東8ホール

### シンポジスト

#### ▶第1部/基調講演

#### オランダにおける福祉市場の発展とトレンド

ピーター・テルプストラ氏 / オランダ大使館 経済・気候 公使参事官



#### ▶第2部/エリアレポート

#### 福祉機器開発・販売市場の現状と今後の可能性

<b>DENMARK</b>	「デンマークの介護補助器具と最新技術」 マッツ・ビアリング・ラ・クール氏 / デンマーク政府保健局高齢者・認知症担当ディレクター 「デンマークの福祉・介護機器市場のトレンド」 モルテン・ラスムセン氏 / Danish Care CEO
<b>U.S.A</b>	「米国の福祉機器市場のトレンド」 ヨルグ・バース氏 / 北米地区担当H.C.R.海外コーディネーター
<b>JAPAN</b>	「日本の福祉機器開発メーカーのこれまでとこれから」 松永 紀之氏 / 株式会社松永製作所 代表取締役社長 「福祉機器・義肢装具とユーザーの現状と可能性」 田沢 英二氏 / 保健福祉広報協会 理事 (兼:スピーカー・進行役)

国際シンポジウムでは、福祉機器開発における世界の最新動向をテーマに6名のスピーカーが報告を行いました。

第1部ではオランダにおける福祉市場の発展とトレンドを概観する基調講演、第2部ではデンマーク、米国、日本の福祉機器市場の現状と今後の可能性を解説

するエリアレポートを行いました。

いま世界中でIoTなどのデジタル技術がめざましく進化していますが、福祉機器分野においても、その技術を活かした開発が着実に進んでいます。その背景には、高齢化が進むなか、介護者の負担軽減、効率化といった日本と共通した課題があります。さらにオランダ、デンマークでは、デジタル技術によって、利用者の主体性を促し自立生活や社会参画に繋ぐという視点が重視されています。

また、米国においては、障害のある人を社会全体で包摂していこうとする人々の意識が高まりをみせるなどの報告があり、福祉機器の開発に留まらず、福祉分野全体の潮流を知る機会となりました。 詳細報告を11ページに掲載しています

## 5 H.C.R. セミナー

福祉サービスを利用されている方やそのご家族、保健・福祉・介護の関係者、企業関係者などの来場者を対象に、福祉分野に係る最新情報等を提供する場として各種セミナーを開催しました。

### 50th プレミアムセミナー

セミナー会場A

#### 1 多世代交流・コミュニティケアを通じた住民共創のまちづくり

9月27日(水)  
13:00~14:00

志波 崇裕氏 / Fujisawa SSTプロジェクト代表幹事企業 パナソニックオペレーションズエグゼクティブ株式会社 ビジネスソリューション本部 スマートシティ推進部 SST推進課



地域共生社会の実現に向け誰もが暮らしやすいまちづくりをテーマに、先進的なスマートシティの事例として神奈川県藤沢市における企業と自治体との官民一体の共同プロジェクト「Fujisawa サステナブル・スマートタウン」の報告がありました。

「多世代交流・健康増進・住まいの好循環」をコンセプトに多業種企業と行政が連携しまちづくりとコミュニティケアの風土づくりを推進しているさまざまな取り組みが紹介されました。

#### 2 利用者を大切にした福祉サービスと質の向上の実現 ~求められる人材育成像~

28日(木)  
10:30~11:30

野澤 和弘氏 / 植草学園大学 副学長・発達教育学部 発達支援教育学科 教授



平田 ルリ子氏 / 社会福祉法人 慈愛会 清心乳児園 園長 / 全国乳児福祉協議会 会長



湯川 智美氏 / 社会福祉法人 六親会 理事長



吉田 昌司氏 / 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室長



福祉サービス利用者の権利擁護等に配慮した福祉施設・事業所における支援・サービスの向上と、その質を高めるために福祉人材をどう育てていくかについて、障害、高齢、子ども家庭、それぞれの分野の立場から、基本理念の具体化と人材育成のための現場の取り組み報告がありました。障害分野における本人の意思決定支援の要点、児童分野における専門職育成レベルアップの具体化、介護現場での虐待防止のための研修事例などが紹介されました。

#### 3 海外進出をすすめる福祉機器企業の展開例

9月28日(木)  
15:30~16:30

##### ▶第一部/基調講演

南須原 美恵氏 / 経済産業省 商務・サービスグループヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室 室長補佐



##### ▶第二部/日本の福祉機器開発企業2社からの海外事業展開 取り組み報告

高橋 立氏 / 株式会社FUJI ロボットソリューション事業本部技術開発部第5課



中西 敦士氏 / トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社 代表取締役



グローバルな視点をもって海外での事業展開を図りたいと考えている日本の福祉機器開発事業者等に役立つ国の支援策を経済産業省から紹介するとともに、米国、ヨーロッパや中国などにおける実際の展開例を福祉機器メーカー2社が報告しました。日本で開発した福祉機器を現地ニーズに適合させるための取り組みやマーケティング、規格認証や輸出の確立、販路形成づくりのポイントを先行展開事例から学ぶことができる機会となりました。

**H.C.R.セミナー Plus One** 主催者会議室

**1 福祉用具法の30年**  
～暮らしを支え、社会を拓く～

9月27日(水)  
10:30~11:30

講師

後藤 芳一 氏 / 日本福祉大学 客員教授・  
日本生活支援工学会会長

山内 繁 氏 / 特定非営利活動法人 支援技  
術開発機構 理事長

安田 勝紀 氏 / シルバー産業新聞 編集長

司会

井上 剛伸 氏 / 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部 研究部長



「福祉用具法」の成立から30周年であることをふまえ、3名の講師がそれぞれの立場から福祉用具を取り巻くこれまでの動向の評価とこれからの展望について述べました。後藤氏は「社会ニーズ、産業と福祉用具 -福祉用具法と産業政策-」のテーマにより、福祉用具法成立から今日における福祉用具の市場規模の変遷を振り返りつつ、福祉用具の産業化を推進するためには福祉用具の質が評価され続けることの重要性を語りました。

山内氏は「福祉用具標準化と国際動向」をテーマに福祉用具の標準化の歴史を解説し、安田氏は「介護保険制度と市場、業界」をテーマとし介護保険制度が福祉用具の発展と普及に寄与したことを指摘し、その重要性について解説しました。

**2 ふくし未来塾プレゼンテーション**  
～福祉現場の次世代リーダーが描く未来像～

9月28日(木)  
10:30~11:30

山下 興一郎 氏 / 中央福祉学院 主任教授・  
日本生活支援工学会会長

〈ふくし未来塾 修了生〉

久保山 久美 氏 / 社会福祉法人 長生会

有原 領一 氏 / 社会福祉法人 宮古市社会  
福祉協議会



「ふくし未来塾」とは、全国社会福祉協議会が福祉ビジョン2020の推進事業として、社会福祉法人における令和の共生社会を創造するトップリーダーの人材育成プロジェクトです。

第2期塾生から2名の代表者が、ふくし未来塾での活動を通して所属法人や地域の課題を見つめ、地域の居場所・交流の場づくりの事例について発表しました。

**3 法人・施設のICT活用事例報告**

9月29日(金)  
14:30~15:30

司会

廣江 晃 氏 / 全国社会福祉法人経営者協議会  
ふくLDX 推進特別委員長

コメンテーター

山口 純 氏 /  
株式会社ヤマグチ 代表取締役/工学博士

事例発表

社会福祉法人 佑啓会 / 千葉県 社会福祉法人 洗心福祉会 / 三重県



廣江氏からは人口減少社会と福祉人材不足を背景に、施設や法人におけるICT活用の目的や意義について導入説明がありました。事例紹介として、佑啓会からは、記録システムの導入事例を紹介し、導入後のメリットやデメリットの理解に加え、自法人の理解や対話を深めることの必要性が示されました。また、洗心福祉会からは、在庫管理アプリを活用した物品管理事例を紹介し、貸与事業のICT活用について、職場環境の改善とスピーディなサービス提供につなげた事例が報告されました。コメンテーターの山口氏からは、導入に至る前の準備の重要性や、法人内の現状と課題を十分に洗い出したうえでの機器導入をすすめることについて助言がありました。

**福祉機器 選び方・使い方セミナー**

セミナー会場B

福祉機器を選び、使用する際には、機器の特徴をとらえつつ利用者に合った機器の選定をすることが重要です。本セミナーでは、福祉機器分野を車いす・福祉車両・自助具等、計10テーマに分類し、福祉機器の適切な選び方・使い方のポイントを講師陣がわかりやすく解説しました。

あわせて、「介護・福祉サービスと医療・看護・リハビリの専門性との連携」と題した福祉専門職向け講座を実施しました。



**身近なICT活用講座** セミナー会場C

スマートフォンやパソコンなど、身近にあるICT機器等の活用によって、障害のある人や高齢者の自立生活に活かすアイデアや工夫をご紹介しました。また、AIによる最新技術等の紹介や、学校や職場などの場面におけるICT活用方法等、ICTにかかる8つの様々なテーマのもと、セミナーを展開しました。



**6 50周年特別企画**

**NextUD JAPAN 2023**

9月29日(金)13:00~  
東8ホール 特設会場

大迫力のオープニング映像とともに幕開けした、ユニバーサルデザインファッションショー「NextUD JAPAN 2023」。

冒頭、日本障がい者ファッション協会によるトークショーでは「NextUD」の概念や、ファッションと福祉の融合に至った経緯について、コメントツールを用いた会場参加型の進行で解説いただきました。武藤将胤氏と平林景氏のセッションでは、機能性とデザイン性の両方を兼ね備えたファッションの追及について熱い意見交換がありました。最後は、平林氏によるNextUDの未来に向けたプレゼンが行われ、誰もがワクワクする未来の提唱に、会場中は大きな拍手で応え、共感の輪が広がっていました。

後半は、NextUDの衣装を身にまとったモデル10名がランウェイを颯爽と歩き、会場を沸かせました。衣装にはそれぞれ、「自由穴」や「付加」などのタイトルがデザイナーの意図として付与されており、デザイン性や生地の新しさはもちろん、障害の特性を考慮した機能性があり、誰もがおしゃれを楽しめる衣装が体现されていました。使用した車いすも先進的なデザインが取り入れられており、未来を感じさせる空間を演出していました。 [詳細レポートを12ページに掲載しています](#)



**いのち輝くアート展**

**1. フクシメデザイン=可能性** ~産官学福の共創で社会をつなぐ~  
Produced by SHIBUYAFONT



デザインを通じて産官学福が連携し、作品を超えて社会を作りあげていくというシブヤフォントの取り組みを作品や製品の展示とともに紹介しました。

ブース内では、アーティストの原画を学生がフォント・パターン化し企業が製品化するというシブヤフォントの取り組みの流れを表現しました。ブース中央に設置した色とりどりの垂れ幕は、来場者の目を一際引いていました。

**2. 金澤翔子展 書と生命**

世界で活躍されている書家、金澤翔子氏の作品展示を行い、迫力と生命力あふれる作品に、鑑賞した来場者は圧倒されていました。

初日の27日(水)には、金澤翔子氏に席上揮毫(書の実演)を披露いただき、力強い「飛翔」の文字をつづっていただきました。会場には実演を楽しみにしていた多くの人が来場し、金澤氏のパフォーマンスに魅了されていました。



金澤翔子氏 実演の様子

## エンジョイアクティブゾーン “Gotcha!”

パラスポーツ等の魅力や楽しさを発信することを目的に、ポッチャ、車いすラグビー、パラローイングのパラスポーツやバリアフリー e-sports、サイバースポーツ、義手義足の体験を実施しました。トークショーエリアでは、パラリンピアンやプロ選手、選手を支える専門職などが、熱のこもったトークを繰り広げました。2日目にはワークショップも開催し、来場者や車いすユーザーと開発者による、夢の車いす創造にむけた議論が交わされ、共創の空間も演出しました。



また、各界の著名人や有名パラアスリートなど、総勢11名からH.C.R. 50周年によせたメッセージもいただき、ゾーン内のスクリーンで放映しました。

全体監修：  
三浦浩氏 /  
パワーリフティング選手



## パラスポーツ



ポッチャ  
日本ポッチャ協会/(株) プラミン



車いすラグビー  
D-beyond



パラローイング  
(株) アドマーニインターナショナル

## バリアフリー e-sports体験

(株) ePARA /  
長屋 宏和 氏(レーサー)



## CYBER WHEEL / CYBER BOCCIA

(株) ワントゥーテン



## 義手・義足体験

(公財) 鉄道弘済会  
義肢装具サポートセンター



トークショー		
9月27日 (水)	10:10~10:30	オープニング あいさつ：三浦浩氏 オープニングアクト①：森圭一郎氏 (シンガーソングライター) オープニングアクト②：志穂美悦子氏 森圭一郎氏
	13:00~14:30	人生100年どう生きる！心とカラダの調和ー 三浦浩氏 (パワーリフティング選手) 志穂美悦子氏 (花 作家)
9月28日 (木)	11:00~12:00	本気で遊べば、明日は変わる。 加藤大貴氏 ((株) ePARA 代表) 鳥越勝氏、長野僚氏、北村直也氏 (パラe-sports 選手)
	13:00~13:45	夢の車いす創造ワークショップ (運営：(株) ePARA) 《第1部》 各開発担当者の取り組み紹介 発表：トヨタ自動車(株)、慶應義塾大学理工学部 高橋研究室 (Humonii)、(株)メルカリ
	13:50~14:50	《第2部》 公開ワークショップ ワークショップ1：車いすの「今」を考える ワークショップ2：車いすの「未来」を考える 出演：ePARA ユナイテッド ファシリテーター：早川公氏 (大阪国際大学 准教授)
	15:00~16:00	《第3部》 パネルディスカッション・まとめ 出演：トヨタ自動車(株)、慶應義塾大学理工学部 高橋研究室 (Humonii)、(株)メルカリ ファシリテーター：早川公氏 (大阪国際大学 准教授)
9月29日 (金)	11:00~12:00	パラリンピアンを支える技術と選手との絆 藤田悠介氏 (鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター 義肢装具士) 湯口英理菜氏 (パラ陸上アスリート)

## 高齢者ヘルスケアカレッジ

人生100年時代を健康でいきいきと過ごすためのヒントが得られる情報の発信をテーマに7本のセミナーを実施しました。

あわせて、3日間通して相談対応や高齢者の事故防止対策等の情報を発信するブースを設置しました。



## セミナー

9月27日(水)



### 認知症バリアフリー社会 ~ともに創る暮らしと地域~

12:30~13:30

永田久美子氏 / 社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター 研究部 副センター長(兼)研究部長  
データを基に、わが国の「超・超高齢社会」の現状をふまえた認知症者の支援には、現状意識・文化、情報等のバリアが存在していることを指摘し、こうしたバリアが存在することを地域全体で認識することが、支援への一歩のために重要であることを解説しました。

### 楽しく気軽にシニアごはん♪

14:30~15:30

枝元なほみ氏 / 料理研究家・一般社団法人「チームむかご」代表  
「簡単」「楽しく」「健康に」をテーマに、シニア世代におすすめの乾燥納豆等を使った発酵食品で免疫力をあげるレシピや、たんぱく質を手軽にとれるレシピを実演紹介しました。  
高齢者自身ができる範囲で楽しく料理をすることは、日常生活を豊かに送るための活力のひとつとなることを語りました。

28日(木)

### 今日からはじめる! 健康体操

11:00~12:00

石田竜生氏 / 株式会社おふとん 代表取締役  
「リハビリレクリエーション」を実施する際のポイントについて、実演をふまえて紹介しました。体操が身体のどの部分に効果があるか、日常生活のどの場面の事故防止につながるか等、具体的なイメージを理解することで、積極的に体操に取り組めることや楽しんで行うためのコツについて解説しました。

### おうちで簡単フレイル予防

13:00~14:00

山田実氏 / 筑波大学 人間系 教授  
介護予防の取り組みについて、予防のために、いかに習慣化し実践につなげるかという意識付けのポイントを解説しました。  
長期的な視点で介護予防をとらえることの必要性とともに、フレイル予防には運動習慣だけでなく、社会参加習慣、栄養管理の3輪が重要な役割を果たしていることを指摘し、できることから始めることを呼びかけました。

### 解説! 今さら聞けない介護保険のい・ろ・は

14:30~15:30

高野龍昭氏 / 東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授  
2000年の介護保険制度施行後、改正・見直しが続かれ複雑化していることをふまえ、はじめに介護保険制度の概要について基本的な仕組みを解説し、利用者の視点から分かりやすく理解できる介護保険の活用方法について、申請や認定の流れを交えて解説しました。

29日(金)

### すみれさんのわくわくインターネットライフ ~高齢者のためのデジタル活用術~

11:00~12:00

伊勢宏子氏 / 公益財団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 東北支部 研修委員長  
「アプリ」「SNS」「防災」「インターネットショッピング」の4つのテーマから、高齢者にも利用しやすく分かりやすいデジタル技術の活用方法について解説しました。スマートフォンをはじめとするICT等の活用によって生活の幅が広がるメリットを抑えつつ、一方で高齢者を対象としたネット上の詐欺等の防止策としてのリスクマネジメントの重要性を解説しました。

### 高齢者自身による健康まちづくり ~老人クラブの事例~

13:00~14:00

池田隆明氏 / みらいふる鎌倉 (鎌倉市老人クラブ連合会) 副会長  
水野彰氏 / 鳥取県老人クラブ連合会 副会長  
「人生100年時代」を見すえ、健康寿命の延伸による高齢者の生活の質の維持・向上が重要視される中で、高齢者が主体となって地域交流と健康保持・増進に取り組む老人クラブの活動事例を紹介しました。  
池田氏からは、みらいふる鎌倉における「フレイル予防活動会」により、高齢者が自身のフレイル度の状況を点検する効果を得た取り組みを報告しました。水野氏は、鳥取県老人クラブ連合会と県の連携により開発された独自の認知症予防「とっとり方式認知症予防プログラム」を活用した取り組みについて報告しました。

## 相談対応・情報提供コーナー

### 安全・安心な生活環境 ~知ろう、防ごう、高齢者の事故~



協力：  
東京消防庁

### 認知症相談窓口



協力：  
浴風会病院 東京都認知症  
疾患医療センター

## 「みんなの会議」伝え、伝わる工夫展

議長：春風亭 昇吉 氏 /  
落語家 / (一社) 落語ユニバーサルデザイン推進協会 代表理事

企画運営協力：(公財) 共用品推進機構  
NTTクラリティ(株)

障害や年齢に関わらず誰もが参加でき、伝える伝わるを可能とする会議を実施するためのコミュニケーション支援機器や工夫等について紹介しました。企業に勤めるさまざまな障害のある方がたの協力のもと、コンビニ、エンタメ鑑賞など身近な生活上の諸テーマについて誰もが便利と考えるそれぞれのあり方の理想像を、多彩なコミュニケーション技法を用いながら話し合う実演を行ったほか、最新の字幕表示版など関連機器の展示を行いました。



## 世界の福祉機器情報コネクゾーン

アジア・米国・欧州における福祉機器開発のトレンドや機器の製作・販売に係る国際展開の動向、海外の福祉機器関連展示会等の情報をまとめ、パネル展示にて情報を発信しました。

また、日本の福祉機器開発分野や制度の状況については、海外来場者および出展社への情報提供の場となりました。



## 50周年アニバーサリープラザ

H.C.R.50年の歴史を、日本における福祉制度の変化とともに25mに及ぶ年表パネルでご紹介しました。過去を振り返り懐かしむ方、初めて変遷を知った方など、それぞれの想いでH.C.R.の歴史をご覧ください場となりました。

また、50周年を記念し、Tシャツ・折り畳みトートバッグの柄に50周年ロゴやビジュアルデザインを用いた限定グッズの販売を行いました。



# 7 H.C.R. 特別企画

## 1 福祉機器開発最前線

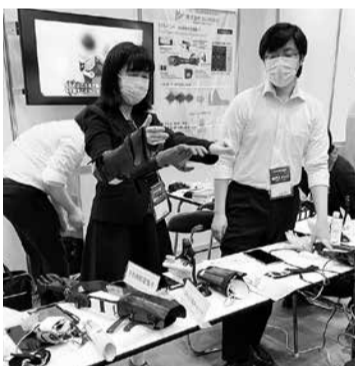


企業や研究機関による開発中または開発もない最新機器などの展示紹介を行いました。

H.C.R.2023においては、視覚障害者向けの靴装着型歩行ナビゲーションシステムや、ARグラスに音声で文字として浮かびあがり可視化できる機器など、計10製品を展示・紹介しました。福祉機器の最新情報を求める来場者と、今後製品の普及や改善に取り組む出展社との有益な交流機会の場となりました。

### ◆ 福祉機器開発最前線 出展企業・製品一覧

展示製品	企業・団体
以心伝心	志エンボディ合同会社 / 愛媛大学
FEEL TECH®	株式会社NTT ドコモ 6G ネットワークイノベーション部
Hapbeat	Hapbeat合同会社
VUEVO マイク&アプリケーション	ピクシーダストテクノロジーズ株式会社
CareWiz トルト	株式会社エクサホームケア
サイボーグ義手プラットフォーム	株式会社Mu-BORG / 国立大学法人電気通信大学 / 横浜国立大学 / 東京理科大学
見える補聴器	株式会社Spacial
視覚障害者向け歩行ナビゲーションシステム「あしらせ」	株式会社Ashirase
Hineru (ハイネル) HineruChair (ハイネルチェア)	株式会社コボリン
futto	株式会社YAMADA



## 2 子ども広場

協力：横浜市総合リハビリテーションセンター  
東京都

障害のある子ども向けの福祉機器の開発・普及を目的として、様々な機器を総合展示するとともに、専門家による療育、リハビリ相談、保育士が常駐するひとやすみコーナーを設置しました。

また、本年はICT機器や学習支援用品などに特化した展示と、デジタル機器の活用に関する活動事例紹介や、便利なICT機器の使用法についてのミニセミナーを実施しました。



### ■ 子ども向け福祉機器展示コーナー

親子が参加して試せる子ども向けの福祉機器の展示と製品説明を行いました。また、リフトと入浴、リフトとベッドを一体的に展示し、移乗動作をテーマとした説明を行いました。

#### 展示製品カテゴリー

車いす いす・カーシート  
食器用具・食器 衣類・靴  
学習・訓練機器  
コミュニケーション機器  
バギー・歩行者  
入浴・トイレ用具・家具

### ■ 相談コーナー

療育相談・福祉機器相談・子どもの住まい相談と、それぞれに相談員を配置し、3日間にわたって相談に応じました。

### ■ 特集！～さまざまな『お困りごと』に応じたデジタル機器の展示、体験～

パソコン、スマートフォン、タブレットなどの身近なものから専用機まで、50を超える「学ぶ」「遊ぶ」「伝える」をテーマとしたデジタル機器を展示しました。

『学ぶ・育む』	学びを容易にするための支援技術や、教科書・本を読むための機器を展示
『遊ぶ・楽しむ』	障害特性に合わせたデバイスの活用で、ゲームやeスポーツ等の体験コーナーを実施
『伝える・伝える』	コミュニケーション時のいろいろな困難を解決する身近な技術、支援機器等の展示

### ■ デジタル機器等を活用した事例のミニセミナー

パソコン、スマートフォンなどの身近なICT機器や、専用機などのデジタル機器の活用により、生活のお困りごとを解決に導く工夫をご紹介する、各回30分のミニセミナーを開催しました。



### ■ ひとやすみコーナー (協力：(一社)東京保育士会)

保育士が常駐し、子ども広場を来訪した子どもたちの見守りや、保護者のみなさんと子育てについてお話する場としました。

## 3 福祉用具相談 ～福祉機器・自助具のお困りごとはこちら～

協力：(一社) 日本作業療法士協会  
(NPO) 自助具の部屋

作業療法士により、日常生活に係る福祉機器の相談対応を実施しました。あわせて、自助具について3Dプリンターによる製作事例も含めて多数展示し、製作相談に応じました。また、その場で作れる自助具製作講習会を27日・28日の2日間、2回ずつ実施しました。



## 4 もっと知ってほじょ犬

協力：(一社) 日本身体障害者補助犬学会

障害のある方のパートナー「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」について、パネル展示や専門スタッフによる説明とともに、ほじょ犬の働きの様子を会場でのデモンストレーションと映像を用いてご紹介しました。



## 5 セルフショップ&カフェ / 被災地支援コーナー

協力：(認定NPO) 日本セルフセンター  
(NPO) ヒールアップハウス 晴れ晴れ

障害者就労支援事業所利用者がプロデュースし、ホットドッグ・あんバターサンド等の軽食や、飲み物の販売を行いました。

また、日本国内で被災のあった地域の障害者就労支援施設・事業所で生産された製品の販売を行いました。



## 8 Web展 198万ビューを達成

H.C.R.2023のWeb展では、約380社の出展社情報と、1,100点以上の製品情報を掲載しました。

各製品ページにおいては、カテゴリ検索、機能検索、キーワード検索の3つの検索項目を設け、来場者が求める製品にたどり着きやすいページとしました。さらに、お気に入り機能を搭載し、気になる製品をいつでも確認しやすいよう改良しました。

また、リアル展で行ったセミナー等のアーカイブ映像について、Web展の開催期間と同じく10月30日まで公開しました。

なお、福祉機器製品情報の発信に資することを目的として、出展社検索および製品検索機能については3月29日(金)まで継続して一般公開中です。

閲覧は右記QRコードより▶



<http://hcr-web.jp>



## 9 出展社プレゼンテーション

出展社25社による製品紹介等のプレゼンテーションをH.C.R.の会場で実施しました。

また、そのプレゼンテーションの様子を、Web展にてアーカイブ映像として公開しました。(一部出展社を除く)

### ◆出展社プレゼンテーション参加企業・団体一覧

会場A ▶ 東2ホール前    会場B ▶ 東5ホール前    会場C ▶ 東3ホール前			
日付	時間	会場	出展社名
9月27日 (水)	10:30~11:30	会場A	ナカ工業(株)
		会場B	(株)シルバー産業新聞社
	12:30~13:30	会場A	DIPPERホクメイ(株)
		会場B	(一社)全国福祉用具専門相談員協会
	14:30~15:30	会場C	スケートインソール(株)
		会場A	介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 (厚生労働省委託事業者:NTTデータ経営研究所)
9月28日 (木)	10:30~11:30	会場A	パラマウントベッド(株)
		会場B	医療・介護ベッド安全普及協議会
	12:30~13:30	会場A	TOTO(株)
		会場B	(株)松永製作所
	14:30~15:30	会場C	(一社)日本福祉用具供給協会
		会場A	トーテックアメニティ(株)
9月29日 (金)	10:30~11:30	会場B	(株)ジェイテクト/(株)豊通オールライフ
		会場C	(株)成電工業
		会場A	(株)甲南医療器研究所
	12:30~13:30	会場B	サンライズメディカルジャパン(株)
		会場C	(株)第一興商
	14:30~15:30	会場A	三菱総研DCS(株)
会場B		AMEDロボット介護機器開発等推進事業	

## 10 広報・PR活動

H.C.R.2023の開催を広く周知するため、出展社等関係者や福祉関係施設・団体、これまでに来場いただいた方などへポスター約5千枚、DMリーフレット約55万枚の作成、メールマガジン約6万件を配信し、事前配布、告知しました。また、業界誌への広告掲載を行ったほか、H.C.R.の開催PR動画や50周年記念動画の制作とともに本会FacebookとX(旧Twitter)のSNSを活用した広報活動を行い、H.C.R.開催情報も含め様々な情報の発信を行いました。

さらに、マスコミ関係者等に向け、保健福祉Newsの発行やH.C.R.プレスリリースの配信、厚生労働省、経済産業省の記者クラブ等を通じて関連記事情報の提供や取材の案内を行ったところ、会期中にテレビ局、ラジオ局など含む120件のプレス取材がありました。

また、下表のメディアにてH.C.R.2023の取材が行われ、開催内容を含めた情報が発信されています。

テレビ関係		Web News関係	
NHK総合1 「みみより!くらし解説」	9/22	読売新聞オンライン	6/1, 8/30, 9/7, 9/8, 9/14, 9/25, 9/27
NHK総合1 「ニュースLIVE! ゆう5時」	9/27	毎日新聞デジタル	9/2, 9/26, 10/13, 10/22, 11/2
BS-TBS「トレンドクリップ」	10/21	北海道新聞デジタル	9/16, 11/5
※その他、東海テレビ、BS-フジの取材あり			
ラジオ関係		朝日新聞デジタル	9/19
TBSラジオ「水曜こねくと」	9/27	山陽新聞digital	9/19
TBSラジオ 「荻上チキ・Session」	9/28	共同通信PRWire	9/20
ニッポン放送「ひろたみゆ紀 サンデー早起き有楽町」	10/1	河北新報オンライン	9/26
新聞、業界紙		岐阜新聞web	9/27
福祉新聞	6/13, 6/27, 7/26, 8/1, 8/29, 9/12, 10/9	東京新聞 TOKYO Web	9/28
薬事日報	8/23	NHK NEWS WEB	9/29
シルバー新報	9/15, 10/6	ニッポン放送 NEWS ONLINE	10/5
日本経済新聞	9/23	サンスポ	9/8
東京新聞	9/28	日刊自動車新聞電子版	9/28
繊維ニュース	9/28	The Citizen	9/29
交通毎日新聞	10/2, 10/9	Time News	9/30
シルバー産業新聞	10/10, 11/10	Bild	9/30
毎日新聞	10/14	THE LOCAL	9/30
京都新聞	10/25	AFPBB News	10/1
沖縄タイムズ	9/20	AoL	10/1
情報誌・機関誌		時事メディカル	6/1, 9/27, 10/2
月刊福祉	7/6, 8/7, 9/6	PR TIMES	1/16, 6/1, 8/17, 9/7, 9/12, 9/13, 9/14, 9/15, 9/19, 9/20, 9/21, 9/25, 9/27, 10/2
NHKテキスト「きょうの健康」	8/21	産経ニュース	8/17, 8/29, 9/7, 9/13, 9/14, 9/20, 9/25
月刊ケアマネジメント	8/30	介護ニュースJoint	9/27
介護ポストセブン	10/13	BSR web	10/24, 11/29
月刊文具	10/31	JETRO「世界は今-JETRO Global Eye」(オンデマンド配信)	11/9
厚生福祉(時事通信社)	11/10		
福祉介護テクノプラス	12/1		

ほか

## 11 車いす貸出・臨時バス運行

H.C.R.2023では、会場内の移動に車いすが必要な来場者に対して車いすの貸出を行い、3日間で65件の依頼がありました。

また、車いすユーザー等障害のある方や、歩行に困難がある方などを対象とする専用駐車場を確保するとともに、りんかい線国際展示場駅と会場をつなぐシャトルバスをご用意し、送迎を行いました。

## H.C.R.2023 報告動画を公開中!



本映像は、H.C.R.50周年の節目として華々しく開催したH.C.R.2023の様子を斬新な編集によりまとめたもので、会場の熱気や来場者・出展社の声をお届けしています。

H.C.R.の魅力凝縮し、H.C.R.が目標とするクリエイティブな福祉の未来の可能性を感じていただける映像となっています。ぜひご覧ください!

閲覧はこちら!

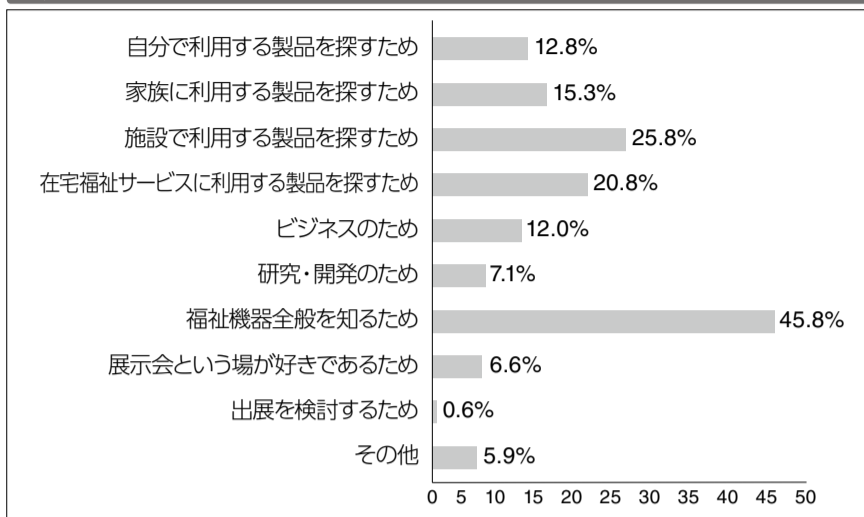


<https://youtu.be/fUg5u4KZHUK>

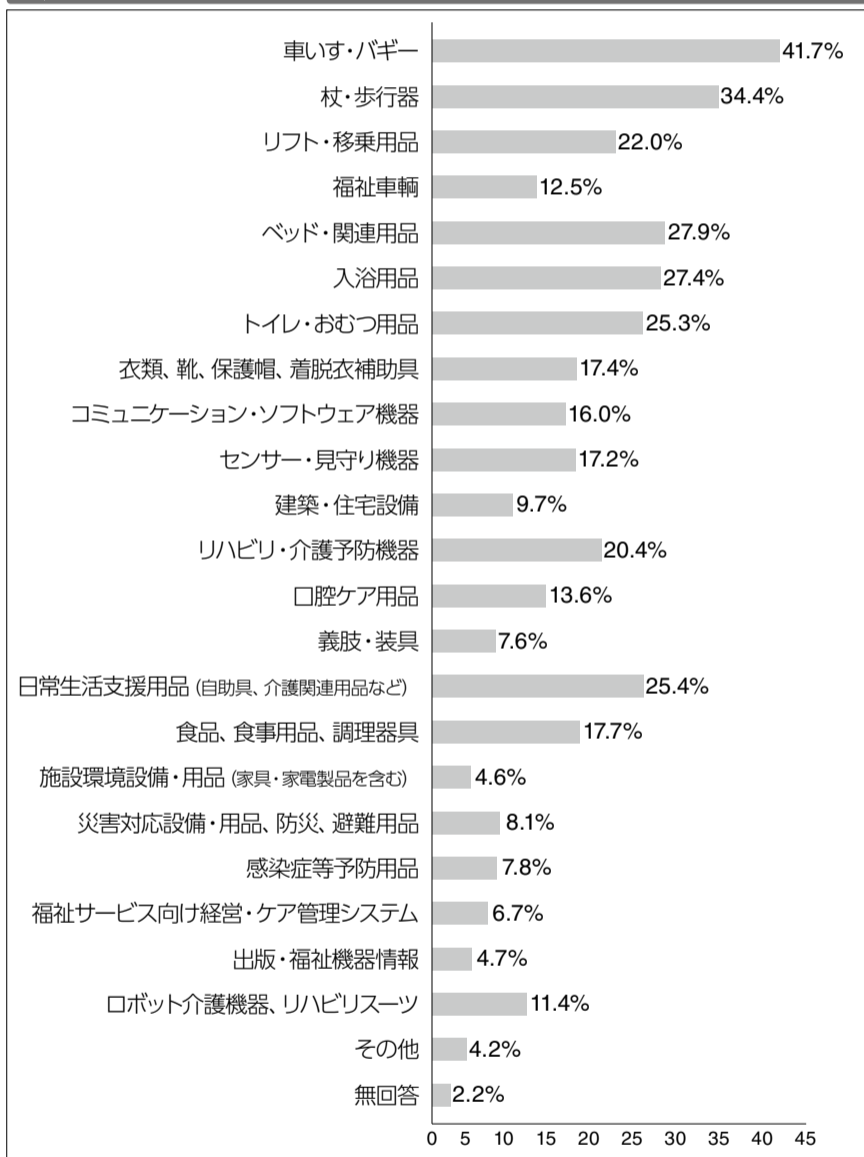
## 12 来場者アンケート結果

5,181件回収(紙 4,803、アプリ 378)

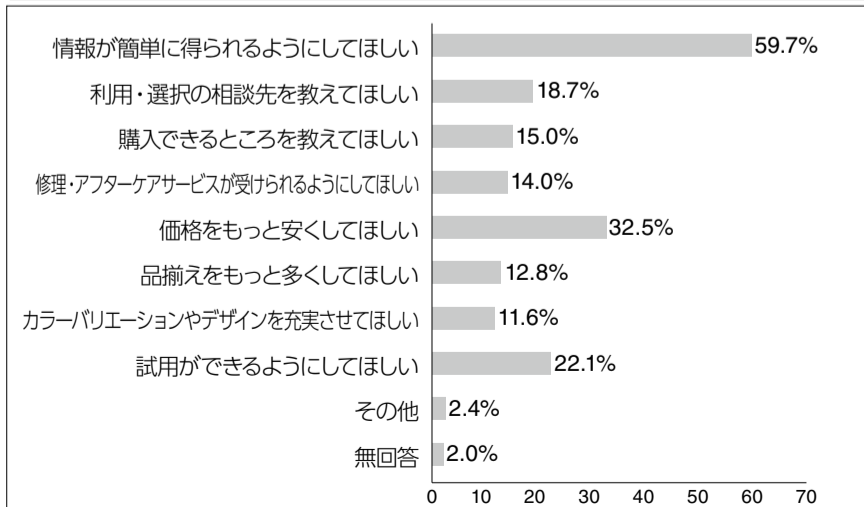
### 1 H.C.R.2023への来場の目的(複数回答)



### 2 お探しの製品の種類(複数回答)



### 3 福祉機器の利用についての要望(複数回答)



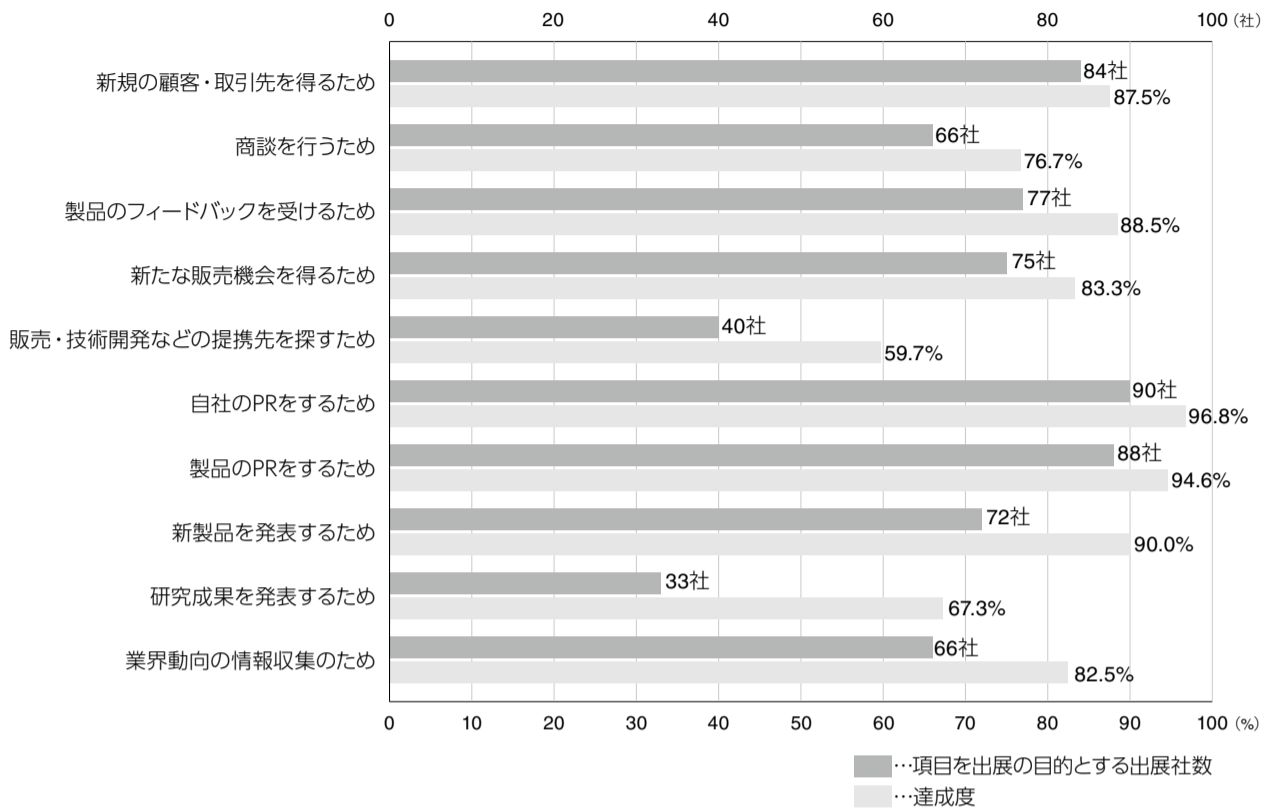
### 4 福祉機器製品の開発や販売に係るご意見、ご要望(フリーアンサー 一部抜粋)

- 軽量かつ割れにくいことは前提ですが、介護用だと一見ではわからないような食器が増えてほしいです。
- 遠方にいる家族の様子があったり、コミュニケーションが円滑にできる機器が進化することに期待しています。
- 大人用と小児用の間、小中学生用の福祉機器の開発をお願いしたいです。成長期に対応できる福祉機器の選択に苦労しています。
- 簡易電動車いすのレンタルにあたり、バッテリーの種類としてニッケルより走行可能距離が長いリチウム式のものが増えたいと考えます。
- 海外の製品で機能が良くも思ったものでも、価格が高く重いことが購入までのネックになっています。海外製品が手に入りやすくなることと、日本の規格にあった製品開発を期待しています。
- 個別のニーズに沿えるようにカスタムができる福祉機器の開発に期待しています。
- 新製品の紹介だけでなく、従来の製品からどこが変わったのか、比較できるような情報提供があると良いと思います。
- サイズが大きく、毎日使うわけではない福祉機器の収納に困ることがあります。また、月ではなく日ごとにレンタルできるような仕組みがあれば良いと考えます。
- 薬を包装から取り出す際に苦労することがあります。薬袋を刃物を使わずに開けられたり、カプセルや錠剤が簡単に取り出せるような自助具の販売があればと考えます。
- ファッションを楽しめ、かつ福祉的なニーズに対応したアイテムが普及することを望みます。
- 施設だけでなく、在宅で活用しやすい製品をもっと開発してほしいです。身近で、コンパクトで、日常的に使うことができ安価なものを期待しています。
- 身体障害者向けの福祉機器は多数あると思いますが、精神障害者等の見た目には分かりにくい障害がある人のための機器をもっと増えたいと思いました。

### 5 H.C.R.に関するご意見・ご要望(フリーアンサー 一部抜粋)

- 施設内に導入できたら良いとイメージしていた福祉機器を展示会で見つけることができました。製品を比較検討できる場としてとても有効です。
- 今年、アプリでスタンプラリーを実施していて、楽しみながら全ホールを回ることができました。
- コロナ禍の影響があり、今回数年ぶりに展示会に足を運びました。この間の様々な福祉機器のめざましい進歩を実感することができました。
- 毎年Web展もリアル展も利用しています。有益な情報を得ることができ満足です。
- 障害者雇用にも繋がるような、職場で活用できるコミュニケーション機器の事例の紹介を行ってほしいです。
- 久しぶりに来場し、福祉機器の重要性と目的を改めて思い起こしました。
- 日本や世界各国の福祉機器にどのようなものがあるか知りたしたりして有意義な学びを多く得られました。
- 海外、特に北欧での障害者施設における環境整備の取り組みについて知りたいです。
- e-Sportsやパラスポーツなどの体験ができて楽しかったです。いきいきと活躍されている選手らと直接お話しができ、パワーをもらえました!
- 3日間では足りないほどでした。土日開催や開場時間の延長も検討してほしいです。
- 体験や試用が可能なブースの場所をピックアップして分かるようにしてもらえるとブースが回りやすくなり良いと思います。
- 授業内で聞いた福祉機器を実際に体験でき、工夫などを知ることができて良かったです。
- 住環境と障害をテーマとした展示を充実させてほしいです。バリアフリーに配慮した間取りと機器の使い方などもあわせて知りたいと考えます。
- 会場が広くて出展社も多く、時間内に回り切れないため、各社5分くらいずつ情報を聴けるようなプレゼン企画をやってほしいです。
- 福祉機器利用の実体験については成功や失敗などたくさんあると思うので、現場で悩むことがとても多いなか、直接話をもっと聞いてみたいです。

## 1 H.C.R.2023への出展の目的と達成度〔複数回答〕



達成度：上記を出展の目的とする出展社で、「i. 達成できた」「ii. 多少達成できた」「iii. あまり達成できなかった」「iv. 達成できなかった」の4択の内、i・iiの割合の合計

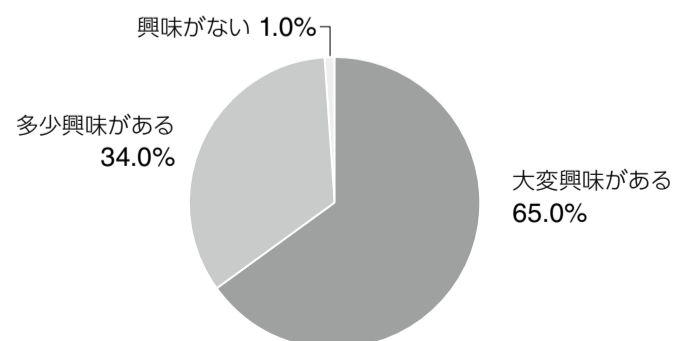
## 2 ご来場者からの声や反応で印象的だったこと

- 来場者に製品をお褒めいただき、世界へ普及してほしいとの期待の声をいただきました。
- 多様な来場者層であることが、H.C.R.の特徴だと思います。海外の方もいらっしゃるし、国際展示会らしさを感じました。
- 「Webで事前に調べてみて、直接見たいと思い来た」というご意見をいただきました。来場者目線で短時間でも効率よくブースを回っていただけるため、Web展の併催は有効です。
- 「製品を初めて知った」「どこで買えますか」との意見をいただきました。多数の来場者の方に製品を知っていただけるきっかけの場となりました。
- アジア各国からの来場者とお話する機会を得ることができました。コミュニケーションロボットへの関心が高く、海外でのトレンドな現状が伺えたことも良かったです。
- 他の出展社から、業界への製品のPR方法を教えていただくことができ、有益な情報を得られました。
- 来場者からの声で、ホームページ上で商品部品を選択しながら完成させることができるセミオーダー品の要望をいただきました。実現性について検討していきます。
- 製品をすでにご使用いただいている方に来場いただき、正しい基本使用方法を直接説明させていただきました。また、使用されている方からアイデアをいただき、今後の製品開発やリニューアルに生かしたいと思えます。ユーザーの方から直接意見が伺える機会は大変貴重で、H.C.R.の価値あるところと感じています。
- 製品に対する来場者の意見がまちまちであることが展示会の反応で分かり、今後しっかりとターゲティングを定めて販促を進める必要性を実感できました。
- 新製品への来場者の反応が気になっていましたが、好感触を示してくださる意見が多く安心しました。
- 自社商品について、H.C.R.で初めて知ったという方が多数いらっしゃいました。「こんな商品を探していました」といったお声をいただくことができました。
- 従来の介護業界の製品に無いデザインだとお褒めの言葉をいただきました。明るくおしゃれで良いと評判をいただき、製品開発の自信にもつながりました。

## 3 次回H.C.R.2024に寄せてのご意見・ご要望

- 福祉機器分野の中で、唯一無二の展示会だと思っています。これからも期待しています。
- 出展社数がコロナ禍以前の規模まで回復することを期待するとともに、介護・福祉施設等関係者の誘致を強化してほしいです。
- 企業向けセミナーに興味があっても会期中は参加ができないため、後日出展社向けにセミナー動画やレジュメの配布をしてほしいです。
- 2023年度はコロナ禍以前の開催状態や規模に戻ってきたように感じましたが、国際福祉機器展として海外企業の出展強化や来場者の誘致、一層国際色豊かな企画展開を期待しています。
- 今回、通路幅が広く、来場者の方からも好評の声をいただきました。2024年も同様に設定いただけたらと思います。
- 近年、福祉用具展示場の減少により、一般の方から福祉機器の常設展示場のお問い合わせをいただきますが、近年展示場が縮小・減少傾向にあります。H.C.R.は福祉機器をお試しいただける貴重な機会だと感じています。
- 来場者の方から「広すぎてよく分からない、どこに行ったら良いかわからない」という声をいただきました。モデルルームのようなものを会場内に再現し、そこで福祉用具の実演をするような企画があれば良いと考えました。
- 来場者数がコロナ前に戻りつつあり、活気もあり良い展示会となりました。次回、さらに来場いただけることを期待しています。

## 4 H.C.R.2024への出展予定



計99.0%の出展社に「次回出展に興味あり」と回答いただきました。



## 開催REPORT

# H.C.R.2023 国際シンポジウム

国際シンポジウムでは、オランダ、デンマーク、米国、そして日本の福祉機器市場の最新動向や各国の福祉が目指す方向性なども示され、世界の福祉分野の潮流を知る貴重な機会となりました。

## 第1部 基調講演

### オランダにおける福祉市場の発展とトレンド

オランダ大使館経済・気候 公使参事官であるピーター・テルプストラ氏は、オランダにおける福祉市場の発展と最新動向を紹介し、「寿命を延ばすだけでなく、誰もが尊厳を持って老後の人生を送れるようにするためには、テクノロジーではなく、人間をソリューションの中心に据える必要がある」と訴えました。現在開発中の最新機器では、外出先でも人工透析が可能な携帯型透析装置などを紹介しながら、「オランダの福祉は人びとを中心としたケア、予防、そして社会参画の確保を目指す方向に進んでいる」と述べ、基調講演を締めくくりました。



ピーター・テルプストラ氏  
オランダ大使館  
経済・気候 公使参事官

## 第2部 エリアレポート

### デンマーク



「デンマークの介護補助器具と最新技術」  
マッツ・ビアリング・ラ・クール氏  
デンマーク政府保健局高齢者・認知症担当ディレクター



「デンマークの福祉・介護機器市場のトレンド」  
モルテン・ラスムセン氏  
Danish Care CEO

デンマーク政府保健局高齢者・認知症担当ディレクターであるマッツ・ビアリング・ラ・クール氏は、同国の高齢者政策の柱として、①高齢者の主体性を促すこと、②自立生活とウェルビーイングを確かなものにする、③可能な限り自宅で暮らせること、④リハビリやケアにおいて人を中心としたアプローチをすること、の4点をあげました。

同国の福祉技術の最新動向では、薬の服用や食事の準備などに関して在宅介護スタッフの助言がオンラインで受けられる『オンライン訪問』を紹介し、「実際に6割の市町村が導入しており、高齢者の満足度は94%に上っている」とその成果を強調。「デンマークではデジタル化と支援技術の融合が加速しており、こうした動きによって高齢者ケアそしてヘルスケアは今後10年間で大きな変革を起こすだろう」と今後の展望を語りました。

続いて、Danish CareのCEOであるモルテン・ラスムセン氏より、福祉機器市場のトレンドとして、①労働環境の改善・介護者の保護、②介護者の負担軽減、③IoTおよびAIによる時間と資源の節約、④エンパワメントと自己決定、⑤感覚統合と刺激、の5項目をあげ、各トレンドに関連する最新機器が紹介されました。

### 米国



「米国の福祉機器市場のトレンド」  
ヨルグ・バース氏  
北米地区担当  
H.C.R.海外コーディネーター

H.C.R.海外コーディネーターであるヨルグ・バース氏は、米国の福祉機器市場のトレンドとして、最先端のテクノロジーを使ったスタンディング機能を搭載した車いす、訓練用三輪車、立位保持装置などを紹介。

米国では、国民皆保険制度の未整備、リハビリ機器など支援技術開発に対する財政支出の不足などの問題があると指摘したうえで、「ただし、政府や保険政策の変化は始まっている。障害のある方々に対する認識と受け入れに関しても新たな動きが起こっている。私たちは障害のある方々をより一層社会の貴重な一員として受け入れる必要がある。今日ここに集まっている私たち全員が、すべての社会のすべての人の生活を改善する使命を持っている。一緒に取り組むことで必ず大きな変化をもたらすことができる」とのメッセージを送り、レポートを締めくくりました。

### 日本



「日本の福祉開発メーカーこれまでとこれから」  
松永 紀之氏  
株式会社松永製作所 代表取締役社長



「福祉機器・義肢装具とユーザーの現状と可能性」  
田澤 英二氏  
保健福祉広報協会 理事

日本からは、松永製作所代表取締役社長の松永紀之氏が登壇。高齢者向け車いすの開発・製造の歴史に触れ、「改めてご利用者の“座る”ということに着目し、より快適にしたいと考えたのが2013年頃から現在に続く流れ」と紹介。便利で扱いやすいだけでなく、日々の生活をより快適に過ごしていただくための工夫を盛り込んだ車いすを提案してきたと振り返り、「ご利用者も介護者もどちらにとっても快適な車いすを生み出していきたい」と今後の展望を語りました。

最後に、本シンポジウムの進行役を務めた保健福祉広報協会理事・田澤英二氏は、H.C.R.2023のメインテーマ「クリエイティブな未来を拓く」を“体現する人”として先天性の四肢疾患により9歳で両足を切断しながら、現在アーティストとして活躍する片山真理氏を紹介。イタリアの靴メーカーとの『ハイヒールプロジェクト』を通じ、「自分がファッション性の高いハイヒールを履くことにより、これまで夢としか思わなかったことでも実現できるということを感じてほしい、それが片山さんの目標」と田澤氏は語りました。

また、事故や病気で足を切断した子どもたちに走る楽しさを体感してもらう『ギソクの図書館（ランニングスタジアム）』の紹介や、東南アジアの人びとへの義肢装具関連事業の実績（33年間で50万名以上の方に義手義足を提供など）に触れ、報告を締めくくりました。

# NextUD JAPAN 2023

プロデュース：日本障がい者ファッション協会  
9月29日(金) 13:00～15:00 [東8ホール 特設会場]

## 次世代のユニバーサルデザイン・ファッションショー「NextUD JAPAN 2023」 H.C.R.からファッションの未来を変える新時代のショーを発信

### ファッション業界出身ではない 3人がパリコレを目指した原点

H.C.R.2023の最終日、ミライを創るファッションショー「NextUD JAPAN 2023」が開催されました。開演の1時間前から、開場を心待ちにする来場者やメディア関係者で会場周辺は賑わい、ファッションショーへの注目度や期待度の高さがうかがえました。

立ち見が出るほどの満席のなか、照明が落ち、大音量の音楽と共にオープニングムービーが流れると、場内の熱気はさらに高まりました。日本障がい者ファッション協会（以下JPFA）の3名が、スタイリッシュな衣装で登場すると、さらに大きな拍手が沸き起こりました。

ファッション業が本職ではない3人が立ち上げたJPFAは、2022年、パリコレの舞台でファッションショーを開催するという偉業を成し遂げました。代表理事の平林景氏は、「車いすユーザー当事者の『おしゃれは好きだけど、おしゃれはあきらめた』の一言に、障害があってもおしゃれをあきらめる必要はない。好きなものを着ればいい。着たいものがないなら作ればいいと思い、服作りが始まった」と、活動の原点について振り返りました。



(写真左から) 司会：平野裕加里氏、谷口藍氏、平林景氏、小川修史氏

### 誰もが「ワクワクして使いたくなるもの」

副代表の小川修史氏からは、「NextUD」の概念について、「障害の有無に関係なく誰もが使えるものがユニバーサルデザイン（以下、UD）で、障害の有無に関係なく誰もが『ワクワクして使いたくなるもの』が次世代のUD、つまり『NextUD』である」と提示され、この概念はファッションにおいても同じことが

いえると説明がありました。

なお、今回のショーでは、来場者のコメントが会場のスクリーンに反映される仕組みが採用され、来場者との双方向なやり取りにより、一体感のある雰囲気を生んでいました。「どんな服があったらよいか」の呼びかけに対しては、「車いすに乗ったまま着脱できるゆかた」や「車いす用のレインコート」といった声がリアルタイムで数多く寄せられ、あらためてファッションに対する期待の高さを体感しました。

### 会場也大いに沸いた ファッションistaとの熱い対談

JPFAの3人が着ている服もまたNextUDであり、副代表の谷口藍氏からそれぞれの服の工夫について説明がありました。中でも、平林氏が履いていたミドル丈のブーツは、筒部分に複数のジッパーが付いており、バナナの皮を剥くように、筒部分が放射状に開く仕様になっています。足に麻痺があり、足首を伸ばせない人でも着脱が可能で、見た目もエッジが効いているブーツを前に、「売って欲しい!」「カッコいい!」といった声がスクリーンに流れ、会場は大いに沸きました。谷口氏は「車いすユーザーにとって機能的で、なおかつ、ファッション性も高い服なら、障害の有無に関係なく『誰もが着たくなる服』になる」と話し、平林氏も「『これ、カッコいいな』と手に取ったものが、障害がある人にも着脱しやすいものであるというのがNextUD」と続けました。

こうしたデザインの必要性についてさらに語り合うべく、武藤将胤氏がステージに登場しました。武藤氏は、ALSの発症を機に、誰もが自分らしく挑戦できるボーダレスな社会を創造することをミッションに掲げたWITH ALSを立ち上げ、活動しています。武藤氏が考えるNextUDファッションとは「障害者と健常者のボーダーがない服」と提案し、武藤氏の考えに強く同意した平林氏と、ファッションの未来について熱い議論が交わされました。



(写真左) 武藤将胤氏

終盤、壇上で一人、スポットライトを浴びた平林氏から、「NextUDのファッションを世界中で流行らせるには、共感の輪を広げていくことが必要。誰もがワクワクする未来を一緒に作っていくことに賛同いただけませんか」との呼びかけに、会場は盛大な拍手で応え、トークショーパートは終了となりました。

### NextUD ファッションの魅力を実際立させる洗練されたモデルたちと車いすによるランウェイ

会場の興奮が最高潮に高まる中、いよいよファッションショーがスタート。幻想的な音楽に合わせて、10名のモデルが、ファッション性と機能性の両方を備えた多種多様なデザインの服を身にまとい、颯爽と歩みをすすめます。

立位でも座位でも着られる服、麻痺や身体の左右差があっても自分の体の特徴にあわせてオンとオフのカスタマイズができるアシンメトリーな服、複数の穴があり、どの穴から腕を出してもおしゃれに見えるトップス、背中ジッパーで左右に分離することで、介助者にとっての袖の通しやすさをも実現したジャケットなど、創意工夫に富んだ様々な服が初披露されました。色や生地、デザインはもちろんのこと、着脱のしやすさ、アレンジのしやすさにおいても高い機能性を兼ね備えており、すべての来場者の希望と気づきにつながったものと思われます。

モデルたちの国籍、ジェンダー、障害の有無なども多様で、NextUDファッションをさらに際立たせる圧巻のランウェイとなりました。すべてが洗練された近未来的な世界観は来場者を魅了し、ルック登場のたびに場内から驚きの声漏れ、ワクワクした表情にあふれていました。すべてのモデルが登場し終わると、惜しめない拍手が会場を包み込み、「NextUD JAPAN 2023」は閉幕を迎えました。



鳥居百舌氏



一樹氏



ケンジーコ氏



大内秀之氏



森田かずよ氏



木下春菜氏



松本拓也氏、中村悠紀氏



Sandra氏



伊藤俊幸氏